

生涯発達理論と見当識障害の関係・具体例一覧

ステージ	人生課題	課題がクリアできた事例	課題がクリアできなかった事例	見当識障害に現れる BPSD
乳児期	基本的信頼 vs 基本的な不信	母親は私たちを寒い中ほったらかしにしないという信頼を学ぶ。 母親の胸の中、温かな安心した気持ちで、身をゆだね、ゆっくりとおっぱいを飲んでいる。母親は決して置き去りにしない、私は愛されている、母は私を見捨てることはない、寒くても、空腹でも、怒りや恐れを乗り越えて待つことを乳児は学んでいく。	育児放棄され、一人ぼっちにされたとなるとあつという間に見捨てられてしまい、空腹と寒さで震え、怒りで顔を真っ赤にして泣き叫び人間を信じるができなくなる。 相手に意思表示しなくなる。	非難、絶望的、無力、無益、新しいことを全て恐れ、感情を呑み込む
幼児期	自律性 vs 恥、疑い	ルールに従うことに大きな喜びを感じる。 乳児期に信頼を学んだ子どもは、転んで泣いても、自分で立ち上がって、もう一度自転車に乗ろうとする。「ほら！乗れたよ！」。 その子どもは何度も転ぶかもしれないが、立ち直れなくなることはない。幼児期には、乳児期に学んだ信頼を応用しているのだ。	親が私たちに繰り返し完璧さを求めてきた場合、汚さないように、こぼさないように、転ばないように、泣かないように、傷つけないように、忘れないように、などと言われ続けたら、子どもは自律という課題を習得できず、背中にさらにもう一つ荷物を背負いこむことになる。	厳密に制御しなければならないという気持ちを高齢になるまで抱え、自分の感情をあらわにするのを恐れ、自転車のハンドルをいつまでも強く握り続け、自分のもっているものにしがみつき、思いを胸に秘めてしまう。
思春期	アイデンティティ vs アイデンティティの混乱 課題は「反抗」	「反抗」という親とつながる紐を断ち切ることが課題となる。15 歳になる頃、大好きだった母親は意地の悪い魔女に変身し、父親は恐ろしい大蛇になり、権威の激しい炎を吐き出す。15 歳で私たちは自分自身の価値を見つけるために親から離れる闘いをしなければならない。自分が何者であるか（アイデンティティ）を見出すために、一番身近な人たちと闘う。自分がどれほどかけがえのない存在なのかを知るための闘う。しかしすでに私たちは乳児期に、両親は反抗しても愛してくれることを学んでおり、反乱を起こすことができる。	両親から無償の愛を受けていないと、闘いを挑み、規則に従わないと、父親も母親も愛してくれないかもしれないと感じる。そうすると孤独になってしまい、降伏するほかないよい子でいようとし、いつもお母さんとお父さんの望むとおり振る舞うようになる。	自らを主張して拒絶されることを恐れ、自分自身であること価値のある存在となるためには、他人にとって意味のあるものにならなければならないと思うようになる。 年をとるにつれて背中の荷物は重くなり、そして絶えず苦しむ人になる。

若 成 年 期	親密（親しくなること） vs 孤独	親密性を求めるようになり、誰かに「愛しています」とささやき、拒絶されるのを恐れることなく、触れたいと思うようになる。 もし自分が何者であるかははっきりと意識して、それが自分の内面深くから生じているものだったら、人に傷つけられる危険も冒すことができるそれでも私たちは壊れてしまうことはない。	前の発達段階の課題を習得していなければ、親密性を求めることはできない。 幼児期に自分を信じて自転車のハンドルを放すことができなかった人が、成人期になってどうやって自分を信じて人生のでこぼこ道を乗り越えていくことができるのだろうか？	乳児期に棄てられた恐怖、子どものとき失敗した苦しさ、思春期に拒絶された恐怖心に絶えず悩まされ、他人と離れ、孤立し、引きこもっていくことになる。
成年期	生殖性(生み出す) vs 沈滞(停滞) 課題は「人生の危機を交わすこと」	しわが深くなり、髪はうすくなる。しわだらけの皮膚は骨となじまない。目の下のたるみがとれない。鏡を見ると、5年前と変わらないように見えるけれども、すべてが下がってきている。次々と喪失に遭遇する人もいる。配偶者に先立たれる、乳房切除、腎臓切除、仕事を失ったりもする。喪失に直面し、嘆き悲しみに暮れる。 しかし鏡の中の自分を見て、人生が永遠には続かないことを受け入れる。人生のレパトリーを広げ、人生のピアノに、新しいキー（鍵）をつけ加え、前進し続ける。妻が亡くなれば、親しい友人を見つけ、仕事を失えば、ボランティアの仕事を受け入れる。	すべてに完璧さを求め、自制心を失ってはならないと学んできた人は、自分の感情を誰にも漏らすことができない。 配偶者を亡くしたり、仕事を失ったりすると何も価値のない人になってしまう。それに耐えるために、喪失による影響を否定する。 新しいキーを覚えるリスクを冒すことができず、同じキーを叩く。過去の古びた役割にしがみつく。妻を失った男性は、妻に代わる人はいないといって新しい人間関係をもつことを拒否する。音楽が好きな人が、高すぎるからといって補聴器を買うのを拒絶する。会社の重役だった人は、引退後も自分の時間は金銭的価値があるといってボランティアを馬鹿にする。	現在のステージに立ち往生してしまい、人生の次のステージに進む準備ができない。過去の行動様式にしがみついている。依存する。
老年期	成熟（統合） vs 絶望、嫌悪	人生で成し遂げてきたことについて満足し、死を迎える準備をする。たとえ果たせなかった夢や失敗があったとしても、自尊心をもって死を迎える。私は女優になりたかったけれど、なれなかった。でも私は自分の演技力を使って、よい教師になれた。自分の夢はかなわなかった、いろいろ失敗もしてきた、今の自分、過去の自分、なることができなかった自分を受け入れることができる。	自分を受け入れることができず、目がかすみ、髪が薄くなり、忘れっぽくなっても愛される存在だと信頼できなかったら、落胆し始める。激しく次々と襲いかかる喪失に打ち勝てるだけ深く自分を受け入れることができなければ、つらい気持ちになり、落胆し始める。	落胆した気持ちは、それが無視されると、中でとどろき始め、うつ状態に陥いる。うつ状態は、人間の内面で感情がかんしゃくを起こした状態。怒り、反抗心、羞恥心、罪悪感、愛情など、生涯押し殺してきたものが化膿してくる。年を取り、背中に背負った荷物が耐えきれもないものになる。